



希望ホールレセプションistのお仕事の様子。お客様に会場のご案内をしています。

レセプションistの一日 マチネ編

マチネ(matinee)はフランス語で、朝・午前を意味します。劇場業界では主に、日中に開催する公演をマチネ公演といます。

12:00／集合・公演確認打ち合わせ

当日の公演内容の確認、業務内容の確認

12:30／受付周り準備

もぎりカウンターや案内掲示板などの準備

13:00／会場チェック

客席やトイレなど、お客様をお迎えできる環境になっているか確認

13:15／開場

ご来場のお客様対応

14:00／開演

場内監視や遅れて来場されるお客様の対応、トイレなどの清掃確認

16:00／終演

アンケート回収やお帰りのお客様対応

16:30／公演振り返り

申し送り事項などを共有

17:00／解散

事業や公演時の譜めくりも担当していただきました。その時の感想を教えてください。

希望ホールの活動現場を見たのは初めてだったので、子どもたちが目を輝かせて聴いていたし、アーティストも楽しそうに子どもたちとお話をしていた、それを見てるのがとても楽しかったです。譜めくりは、もちろん緊張もしましたし、間近で聴く素晴らしい演奏に聴き入ってしまった譜めくりのタイミングが遅くなってしまう時は焦りました。

希望ホールで行っている事業とは知りませんでした。こういう取り組みは素晴らしいと思います。

レセプションistなどの劇場業務や、事業への参加を通じて出会えた市民の方と他の劇場業務で関われることは、ホール職員としても嬉しいです。譜めくりの時にアーティストの方と阿部さんの意思疎通がスムーズにできていたのを見て、阿部さんにご依頼して良かったと思います。

レセプションistになったことを機に、ご自身の生活や仕事などに何か変化はありますか。

お客様に自然におもてなしができるということは、自分の仕事にも活かせることだと思います。自分がピアノの発表会で演奏する時にもホールに慣れているのは自然な立ち振る舞いができる

希望ホールのレセプションistに応募したきっかけを教えてください。

職業訓練学校に通っていたのですが、そこで一緒に学んでいた友人がこんな仕事があるよと教えてくれました。以前からピアノを習っていたので、発表会などでホールスタッフの仕事を見たことがあり、そのような仕事も楽しそうだなと思いました。

私も、レセプションistという仕事を希望ホールに勤めるまでは知りませんでした。阿部さんはレセプションistという言葉や仕事内容を知っていましたか。

私も知りませんでした。なので、チラシを最初に見た時は、「どういう仕事なんだろう」と思いました。

実際に劇場の業務にあたる前には長い研修期間もあり、私たち職員も一緒に学びました。その時の感想をお聞かせください。

劇場業務に対する考え方や基本的なおもてなしを学ばせていただき、大変貴重な時間でした。講師の方のご指導がとても楽しく、わかりやすかったです。

講師の方の動きが印象的で、姿勢が良く、動きが自然でしなやかさを感じ、とてもかっこいいなと思いました。それと、返事がスマートでした。質問したことに対して、否定せず受け止めて返事してくれるところが素晴らしいなと思いました。

思いますし、人前で何か行うときにも自信になると思います。

そのためにも、もっとホールのことを知って、お客様の質問にも丁寧にすぐ答えられるようなレセプションistになりたいです。

希望ホールについて一言

練習室など、使用料をもう少し下げてくださいと思います。他の施設よりいいピアノもあるので利用したいのですが、使用料が高くて中々頻繁には借りることが出来ません。

大変貴重なご意見ありがとうございます。空調代を含んだ料金設定となっているため、使用料が高いというご意見は多く寄せられています。今後の参考にさせていただきます。ありがとうございます！



INTERVIEW

希望ホールレセプションist 阿部環(あべたまき)さん

希望ホールのレセプションistにお話を聞きました

KIBOU HALL
SAKATA CIVIC HALL

RECEPTIONIST INTERVIEW

公演当日に、チケットイク(もぎり)やお客様のご案内などを行うスタッフのことをレセプションistといいます。希望ホールでは、プロの講師による研修での学びや実際の業務を通じて、「劇場」についての理解を深め、劇場職員と市民が一緒に働くことによる相互の人材育成を目指し、レセプションistの育成を行っています。今回は、希望ホールのレセプションistとして働く阿部環さんに、レセプションistのお仕事について感想などをお聞きました。

Interview 池田晶

“お客様に自然におもてなしができるということは、自分の仕事にも活かせる”

希望ホールのレセプションistに応募したきっかけを教えてください。

職業訓練学校に通っていたのですが、そこで一緒に学んでいた友人がこんな仕事があるよと教えてくれました。以前からピアノを習っていたので、発表会などでホールスタッフの仕事を見たことがあり、そのような仕事も楽しそうだなと思いました。

私も、レセプションistという仕事を希望ホールに勤めるまでは知りませんでした。阿部さんはレセプションistという言葉や仕事内容を知っていましたか。

私も知りませんでした。なので、チラシを最初に見た時は、「どういう仕事なんだろう」と思いました。

実際に劇場の業務にあたる前には長い研修期間もあり、私たち職員も一緒に学びました。その時の感想をお聞かせください。

劇場業務に対する考え方や基本的なおもてなしを学ばせていただき、大変貴重な時間でした。講師の方のご指導がとても楽しく、わかりやすかったです。

講師の方の動きが印象的で、姿勢が良く、動きが自然でしなやかさを感じ、とてもかっこいいなと思いました。それと、返事がスマートでした。質問したことに対して、否定せず受け止めて返事をしてくれるところが素晴らしいなと思いました。

思いますし、人前で何か行うときにも自信になると思います。

そのためにも、もっとホールのことを知って、お客様の質問にも丁寧にすぐ答えられるようなレセプションistになりたいです。

希望ホールについて一言

練習室など、使用料をもう少し下げてくださいと思います。他の施設よりいいピアノもあるので利用したいのですが、使用料が高くて中々頻繁には借りることが出来ません。

大変貴重なご意見ありがとうございます。空調代を含んだ料金設定となっているため、使用料が高いというご意見は多く寄せられています。今後の参考にさせていただきます。ありがとうございます！

研修を経て、いよいよ公演デビューとなりましたが、最初の公演の時はどんなお気持ちでしたか。

今までと違って、いざその場にレセプションistとして立つことも緊張しました。

レセプションistとして対応した公演で、印象に残ったことや苦労したことはありますか。

「このホールは何人入りますか？」とお客様に聞かれたのですが、研修で教わったにも関わらず忘れてしまい、間違った人数をお伝えしてしまいました。後でそのお客様に正確な客席数をお伝えしたら「ありがとう」と言ってもらえて、ほっとしたことが印象に残っています。それから、一幕が終わる時や終演の際に、「あれ、扉はいつ開けるんだっけ？」と思うことがあり、早めに開けてしまったこともありました。これも研修で教わったはずなのに、いざ現場に立つと出来ていなかったり、まだまだわかっていないと感じました。

他のレセプションistたちと情報を共有しながら業務を行いますし、私一人ではなく、みんなでフォローし合いながら進めていくのでチームプレイもとても重要な仕事だと思っています。

現在のレセプションistの皆さんは自発的でも協力的ですし、助け合えるメンバーなのですごくいい空気ですよ。

阿部さんはレセプションist業務のほかにも、小学校へのアウトリーチ

酒田の地域産木材を使った、レセプションistのネームプレート



酒田市内の山林で大切に育てられた「酒田杉」を伐採し、壁材や床材として整えた際に生じる、余分となった杉板を加工して作ったネームプレートです。素材は、さかた木づかい夢ネット会員の株式会社阿部製材さんから提供いただきました。また、木の加工してくれたのは、山形県立酒田特別支援学校知的障がい教育部高等部の皆さん。酒田の気候風土の中で育った杉の木の温かいぬくもりや香り、そしてひとのやさしさを感じながら、レセプションistの皆さんは活動しています。

さかた木づかい夢ネットとは ▶ 酒田市内の林業、製材、建築、設計業者によるネットワーク組織。後継者育成や地域資源の活用技術の調査研究、消費者PR(消費者が地元の森林に親しむ機会の創出)などを通じて、SDGsの視点に立った地域産木材の活用を目指しています。